

県立はりま姫路総合医療センター（仮称）及び関連施設の基本設計概要について

1 新病院の診療機能

(1) 基本的な機能

- ① 高度専門・急性期医療の提供
- ② 救急医療の充実
- ③ 質の高い診療・教育・研究の実施

(2) 診療科目 34科

(3) 病床数 736床

(一般病床 720床、精神病床 16床)



2 施設計画

(1) 建設場所：姫路市神屋町(キャスティ21イベントゾーン「高等教育・研究エリア」内)

敷地面積：30,000 m²

用途地域：近隣商業地域

(2) 構造規模等（予定）

① 病院棟

- ・鉄骨(CFT)造（免震構造）
- ・地上12階 塔屋2階
- ・延床面積 58,945 m²
- ・高さ 57.5m

② 放射線治療棟

- ・RC造（耐震構造）
- ・地上2階
- ・延床面積 1,757 m²
- ・高さ 10.3m

③ 教育研修棟

(獨協学園、県立大学、病院研修部門・院内保育、エネルギーセンター)

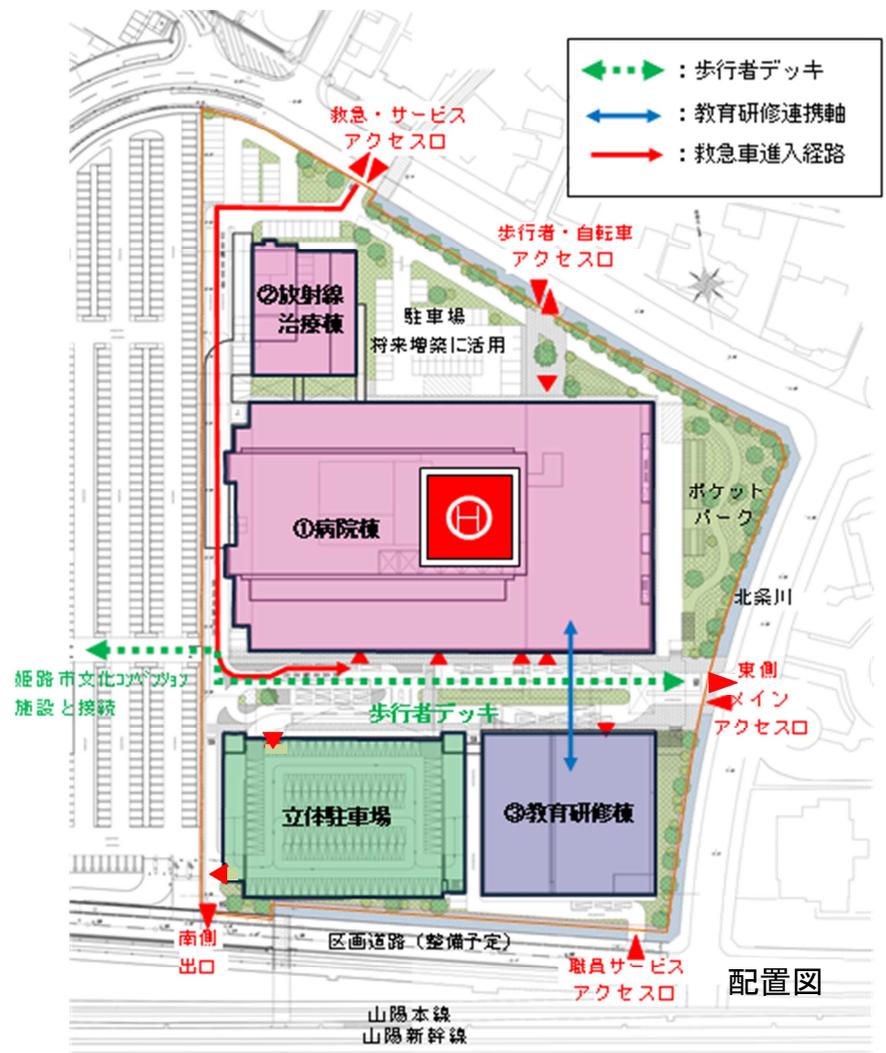
- ・RC造（耐震構造）
- ・地上5階
- ・延床面積 8,401 m²
- ・高さ 26.3m

(3) 屋外施設（予定）

歩行者デッキ、ロータリー

立体駐車場（814台）

平面駐車場（86台）等



※渋滞緩和等、交通アクセスに配慮した出入口の運用等を今後検討

3 概算事業費

427 億円（建築費 343 億円、医療機器整備費 71 億円、設計監理費 13 億円）

- ※建築単価の上昇、歩行者デッキ・渡り廊下の整備、消費税率上昇（8%→10%）等により、当初想定していた事業費（342 億円）から増嵩
- ※立体駐車場整備については、P F I の活用も検討中

4 設計上の主な特徴

(1) 周辺の環境や施設との融和

- ① 姫路駅からイベントゾーンに至る賑わいの路を形成（2階レベルでのデッキ接続）
- ② キャスティ 21 イベントゾーンにおける幅広い世代の市民が集う多様な交流活動の拠点
- ③ 姫路市文化コンベンション施設の活用（コンベンション施設の学会利用等）

(2) 歩行者デッキと吹抜け空間を軸とした魅力ある環境づくり

- ① 活気あるアプローチ空間を形成（歩行者デッキから病院棟と教育研修棟へアプローチ）
- ② 人々が行き交う賑わいの空間を形成（吹抜け空間を軸に外来・診療エリアを展開）

(3) 療養環境の向上

- ① 空間の広がりや繋がりがある外来空間（吹抜け空間による明解な視認性の確保）
- ② 患者とスタッフ相互の環境に配慮（姫路城が望めるデイルームやカンファレンスの配置）
- ③ 照明の LED 化や病室内に家具を配置するなどプライベート空間の確保に配慮

(4) 効率的な病院運営

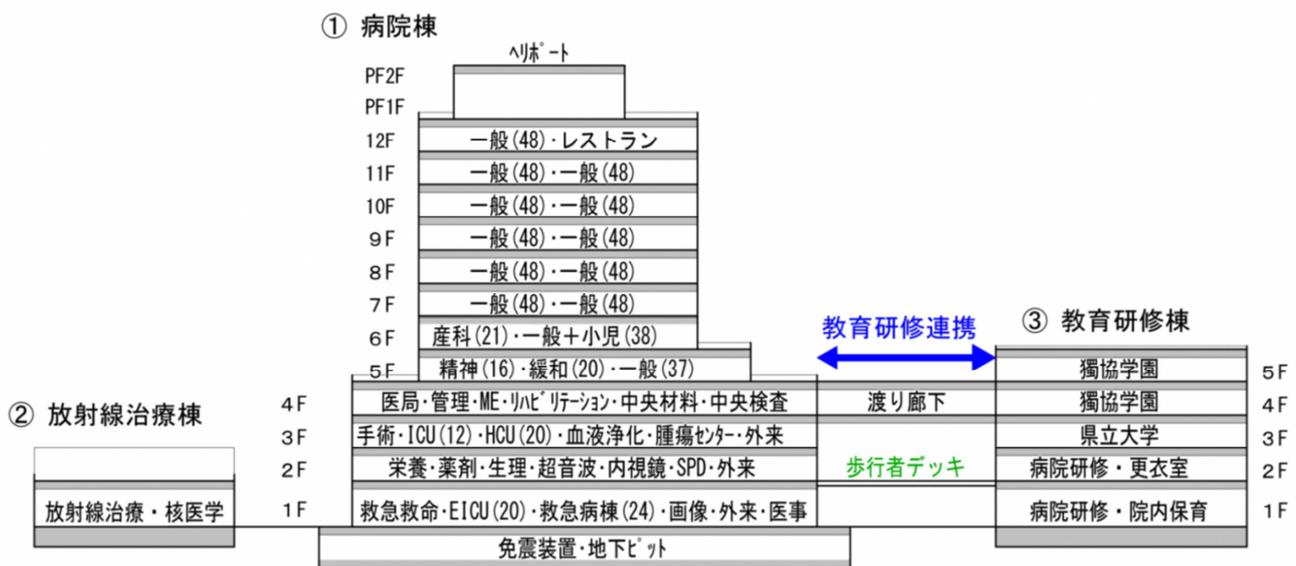
- ① 看護動線が短い効率的な病棟（スタッフステーションを病棟の中央に配置）
- ② 院内物資の高速搬送用設備の設置による院内業務の迅速化

(5) 将来の環境変化への対応

- ① 将来の変化に対応した自由度の高い計画（コアを建物外周部に配置、増築スペースを確保）
- ② 個室ニーズへの対応（4床室から個室への可変性も考慮した病室プラン）

(6) 関連施設（獨協学園医療系高等教育・研究機関、兵庫県立大学医産学連携拠点）との連携

- ① 関連施設との共同研究を促進（教育研修棟の 1.2 階に病院の研修部門を配置）
- ② 新病院と関連施設の連携を強化（医局部門等がある 4 階と教育研修棟を渡り廊下で直結）



5 整備スケジュール

年 度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022
建物整備		基本設計	実施設計	建設工事		● 開院
医療機器整備		医療機器選定、情報システム設計、発注			開院準備	

【再掲：イメージパース】

